



国民に禍を為すリニアを残して逝った!

7月19日、会社のHPに、弊社名誉会長 故葛西敬之「お別れの会」を8月29日に執り行うことについて発表がありました。5月25日に葛西名誉会長が間質性肺炎のために81歳で亡くなりました。以降、マスコミはこぞって葛西名誉会長の功績を報じています。

国鉄は、1964年に赤字に転じ、国鉄の立て直し、鉄道の再生のために、1987年に国鉄改革が実施されました。国鉄の職員数は最も多い時期に50万人を越えていましたが、その後も合理化が進み、民営化前年の1986年には27.7万人となりました。当時の職員は、国鉄改革の中で、故郷を離れ、元の職場を残すために大阪や東京の職場に異動するなど、慣れない土地で新たな仕事に就き、血と汗を流し、新生JRをスタートさせました。当時、葛西氏は、人事畑からJR東海の取締役総合企画本部長に就任、1990年に副社長、その後、社長、会長で君臨し、2014年には会長退任後に名誉会長という珍無類な肩書きを新設しました。以降、葛西氏は異常なナショナリズムと故・安倍首相との関係を密にしながらむしろ政治との関わりを強めていきました。

労働組合を利用し、使い物にならなくなったら組合つぶし!

JR東海が順調にスタートしたのは社員の努力だけでなく、当然、労働組合の協力がなければ達成出来ませんでした。当時、東海旅客鉄道労働組合として、労使一体となって努力をしてきましたが、葛西氏は、自分一人でやったと勘違いしていました。

1991年、湾岸戦争に反対する意見を組合の会議で発言した組合員が上司から注意され、その後、出向となりました。組合の情報が会社へ筒抜けとなって戦争反対が処罰されたことになったのです。戦争に反対し平和を求めたり会社の経営に反対するようになった労働組合に対し、会社は憎悪をむき出しにして労組破壊を企て、組合本部の役員人事に介入してきました。以降、会社による組織破壊攻撃を許さず、平和と民主主義を守るために1991年8月11日にJR東海労を結成しました。

54歳原則出向反対! 働きやすい職場にするには声を出さないと変わらない!

当時の葛西氏は「朝日の前の雪だるま」と東海労を称し、職場では管理者を使った様々な組合員への差別、転勤、弾圧、嫌がらせを仕掛けてきました。その最たるものが「ボーナスカット」でした。業務上の恣意的な注意を口実にして組合員個人を攻撃するという卑劣な攻撃でした。私たちはそのような攻撃に屈することなく、会社による合理化を許さず働きやすい安全な職場をつくるために、抗議やストライキを行使して闘ってきました。当然、リニア反対も含まれるのです。その闘いの中で、会社は暴力事件等をもデッチ上げ3名の仲間を不当にも解雇しました。職場における闘いによって私たちの闘いが広まることを恐れた労働組合への弾圧です。一連の会社の行為は葛西氏を参謀本部とする「シナリオ」によって実行された大掛かりな組織破壊策動でした。現在、職場の声や意見が東海労へ傾くことに恐怖した会社は54歳原則出向の組織破壊攻撃を行っていますが、私たちは断固、許さず闘っています。

「リニアは絶対にペイしない」「工事費1.5兆円増加」

「開業目処なし」 リニアの責任は誰が取るのか!

葛西氏は、リニア中央新幹線の建設を自らの歴史上の偉業と考えていたそうです。そのリニアの財源は安倍政権時代に国の財政投融资により3兆円の投入が決定しましたが、現在、環境問題、残土問題や工事中の事故などでリニア建設は遅れを増すばかりです。2013年当時、山田社長は「リニアは絶対にペイしない」と発言しましたし、2027年の品川・名古屋間の工事費が1.5兆円増加したものの開業の目処は立たなくなっています。葛西氏とその後支えをした故・安倍元首相は、国民・社員に禍となるリニアを残して逝きました。